鹿目判十良
袖崎千彌

南色梅早咲

へ13
3081

菊色

へ13
3081
特

昭和九年
七月二一日
購求

へ13
3081

廉国判十良　袖寄千弥　蘭色梅早咲　夜番新板　金弥六著

付り　梅ぢしの香包　花ごもの　蘭乃徳輝　姿こ　花ごもの　蘭色扇　空ゆく風の　数弓ぜ弓漫

浮世本書　柳亭種彦

今様繪師　柳川重信

江戸人形町通

蔦屋金助板

よ世わ山住ゐ　羨かしぬ　郭公　人ども　聞ども　涙　思ふ

見ど中して　丹波鄙　香臭さ　ども　百色染ぶ　流行ゆ　年　扇

ゲすこ　こゆ　是で　活てゐる　甲斐　人ばかり　て　裏借ふ

住ゐ　ども　初も　浮世の　せ　さむ　ひの　鶯治屋の　梶の　青よ　朝ひ　から

たき　紀され　隣の　屋の　臺書　のひ　ふ　ども　ら　眠られず

ら　十二　時よ　入み　絆見る　ゆ　ふ　人　見が　法ば　分が　ゐ　畢竟　人の　呂

悪の　器一　升入の　鉢　海　川　一　生の　ぬ　名　ひと　聡　陀

して　今年　かし　ね　繪草紙の　新作　大　雖　ひつて　西　口　真

似ても　ろ　ね　ぬつ　ぐ　嗚呼　そ　ひ

文政二年己卯四月序ス
三年庚辰正月發販

柳亭種彦

百姓曽次郎
妹背由伎
浦波の近臣
犬飼伊丹之助
後ふ
侠客丹助

或人の浮世まねるるよ日
月はくもりなくこそ
二つ月よこの文字
いれてきさらぎこの子
貞徳
花房千弥
後ふ
袖崎千弥

秋葉山
常燈明
鹿目判十郎
後ふ刀屋半七
藝子
阿花

鶴林寺の惡僧
泥田坊後ふ是期

南色梅早咲

一

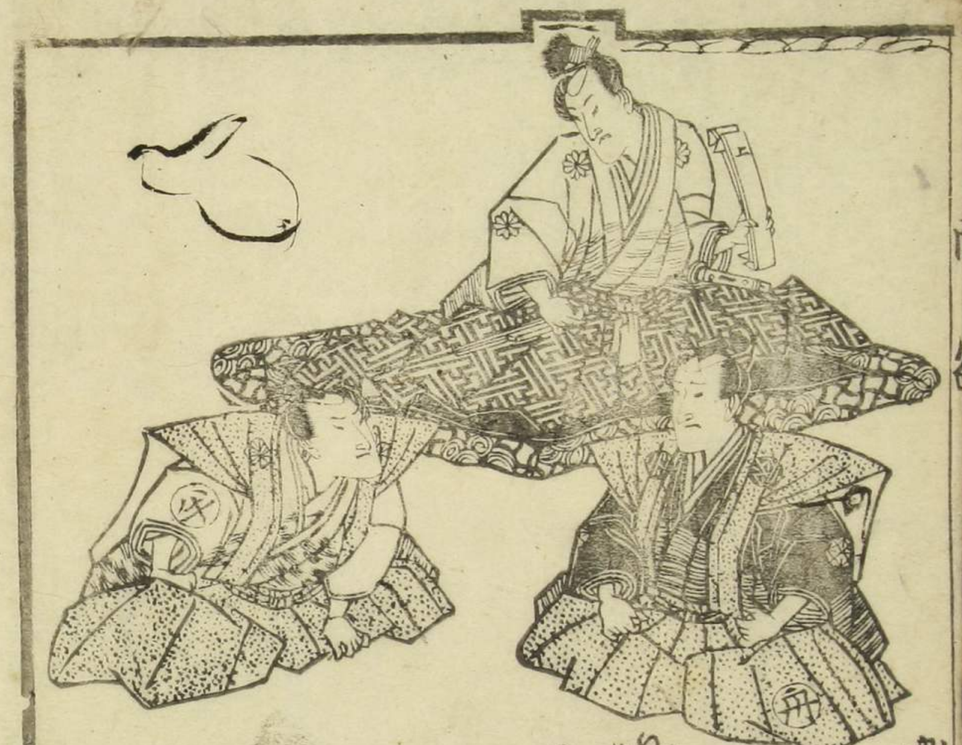
元道の言上二人の情

柳亭種彦作

第一卷

昔浦波多満の助といふ侍ありけり阿波の國に住しく文武を車の両輪とし賞罰あきらかにして忠臣の士多く麻間郷を治す同判官の兄弟又大納言丹の助なりけるが天然豁達なる者も多くして同家中に花房千絲といふ少人生質さえかしこく仏ずるぶん人なれども人ぐとも心ふかく紙かけ多くふかく東ふかくびくりけれども絲父へいらくふかくて毎のごとく一人ありけるが善の上にもとより風のうちとおもひ水垂月の初ふかきさえの数ふかりけれども絲ぶかきげにいさんうさきく則若のごとく不幸林きえ葬とみ十日のあいだ中絶孫ごへうくさんちるふかうこうして母の墓ふうちむこい念仏ばかりあらん他るまうりくるとおぐ

鹿子雁兵衛實ハ
海賊の首領
夜叉丸



雪
花
十
十

泥
丸

柳川画帝

種彦作

梅の花
下
千代ゆてゐる
鶴金
重信画

梅早咲

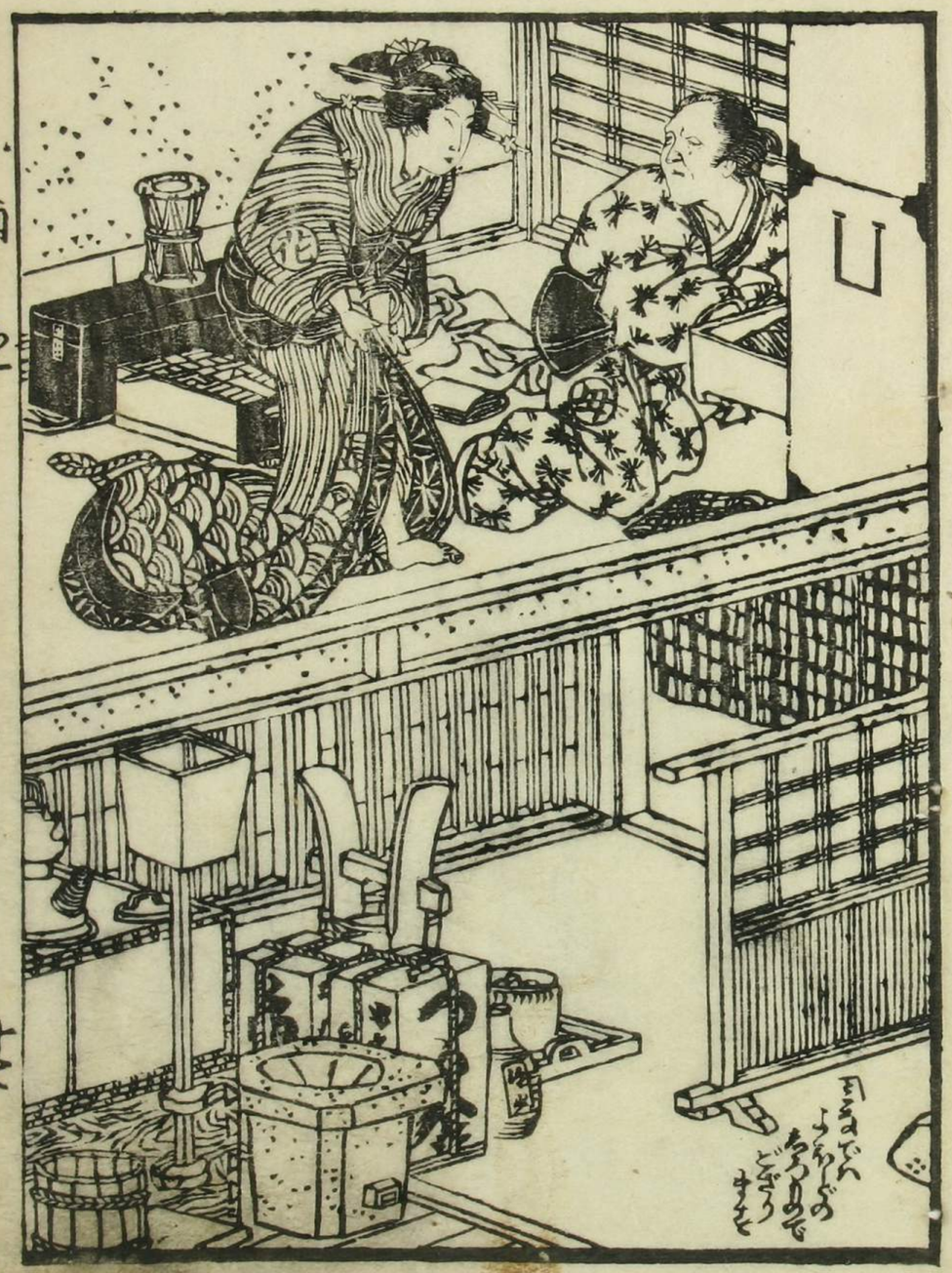
うめのさやざくら

柳亭種彦作

柳川重信畫

雙鶴堂梓

後編上冊



丹助小道具屋とよばれて不用の道具をうりあるく

五人囃

○坐敷狂言

三味線ちゃうみ

種子千弥

後編 中冊
土弓

円

丹
花
キ

半
丹

千
化

五の巻のつゞき

つゞきの巻へ

六の巻へつゞく

雪
母

母

大あうの図
雙鶴
山三白酒

六冊大尾

柳亭種彦作

柳川重信画